



千葉動力車

92.11.30 3699

一年末手当

日貨労働も解体を断固拒否

十一月二十七日、JR貨物当局は、年末手当について、「二・六カ月」という、JR各社中最低の格差・超低額回答をおこなった。断じて許せない！怒りを抑えることができない！
同じ国鉄の職場に働いてた者が、たまたま貨物職場であった

貨物危機など

口奥にすぎない！

貨物当局は、ことさらに「経営の危機」「赤字転落の危機」を強調している。しかし貨物会社は、分割・民営化以降五年間、バブルと「モーダルシフト」の波ののって膨大な利益をあげているのだ。その額は、八七年度五九億円、八八年度六六億円、八九年度六四億円、九〇年度七四億円、九一年度十九億円、総計二八二億円にのぼる。今期の経営悪化だけをことさらに取り上げて賃金を抑えこむなど、全くのペテンだ！仮に、JR東日本並みに支払っても、この間の儲けのわずか数パーセントを吐き出せばいいだけである。

分割民営化を

推進した連中を許すな

しかもこれは、分割・民営化の当然の帰結である。だから

というだけで、何ゆえこんな賃金格差を強制されなければならぬのか！断じて納得がいく訳がない！しかも、こともあろうに、日貨労働はこの提案を即受結したのである。もはや日貨労働は解体する以外ない！

五年間膨大な営業赤字をだし続けていた三島JRの方が比へものにならないほど悪い。しかし、貨物の回答は、これをも大幅に下回っている。結局その意図はただひとつである。累積債務を増やし続ける清算事業団、赤字続きの三島JRに続いて、貨物会社まで赤字に転落したら、それこそ、分割・民営化とは何であつたのかが問われざるを得ないため、全ての犠牲を労働者に転嫁し、格差低賃金を強制しただけのことである。しかも、「経営危機」など、現場で働く労働者には何の責任もないことだ。われわれは、JR貨物当局の欺瞞を徹底的に弾劾する！

われわれは、分割・民営化に断固として反対した。これを推進し

た者、そのお先棒を担いだ者、つまりJR当局とJR総連・日貨労働を断じて許すことはできない。彼らは、分割・民営化攻撃の当初から「貨物は安楽死だ」と主張しつつそれに協力したので、そこに働く者のことなど、始めから何ひとつ考えていなかったのである。始めから、貨物などどうなってもいいという考

貨物当局に対し断固たる拒否を 日貨労働の裏切りを結弾劾！

われわれの我慢にも限界がある！「分割・民営化すればバラ色」などとうそぶいていた連中には責任をとってもらわなければならぬ。われわれは、この格差攻撃を期として、JR貨物当局に対し、断固とした闘いに立ちあがる決意である。そして、もう一方の元凶であるJR総連・日貨労働を解体しなければならぬ。日貨労働は、自らの組合員の怒りの声すら無視して、奴隷根性で「二・六カ月」の提案を即受結したのだ！こんな連中の存在を許しておいては、貨物における賃金の獲得も労働条件の改善もかちとることはできない。今度は格差どころか、当局の代弁をして「九千人合理化」を積極的に推進し始めるに決まっている。われわれは、怒りも新たに日貨労働の闘いに立ちあが

えて、自前のレールも持たない鉄道会社を作りだしたのだ。組合潰しと自らの保身のためだけに、十万人の国鉄労働者の首を切り、七千人を清算事業団に送り込み、サギ同然の年間百万円もの年金切り下げに賛成し、合理化と安全の解体を推進し、そして貨物に働く労働者をも切り捨てたのである。

る！

JR貨物当局は、格差回答を撤回せよ！労働者への犠牲の転嫁を許すな！分割・民営化体制粉碎！当局の先兵日貨労働を叩きつぶそう！

